

教育目標		普通科と芸術系学科からなる学校としての特性を生かし、感性を育み、心豊かな生徒の育成を目指す。					総合評価	
運営方針		安全で安心な学習環境のもと、基本的な生活習慣の確立と学力の定着・向上を図り、生徒一人一人の個性を尊重し伸ばす指導をする。						
		生徒の心身の健康に留意し、きめ細やかな指導のもと生徒の自主性・自発的活動を推進し、自立心や社会性を育成する。						
		普通科と芸術系学科からなる学校としての特性を生かし、教職員が一体となって学校運営を進め、魅力と活力ある学校づくりをする。						
平成28年度の成果と課題		本年度重点目標		具体的目標				
授業改善に努め、「わかる授業」を進めることで、学力向上、コミュニケーション能力の伸長に一定の成果があった。また、基本的な生活習慣の確立にも成果を上げるとともに、落ち着いた環境で教育を推進することができた。 今後は、生徒の学習意欲の向上を促す授業の改善を進める。また、生徒の自主的・自発的活動を進め自立心と社会性の育成を図る。さらに、自らを律する心、他を思いやる心、及び、向上心を育成する取組が課題である。		学力の定着・向上と主体的な進路実現		「わかる」授業・「主体的に取り組む」授業を進め、学力の定着・向上と表現力を育成する。キャリア教育を充実させ、生徒自らが主体的に進路選択できる力をつける。				
		基本的生活習慣の確立と社会性の育成		生徒一人一人の理解に努め、けじめある生活態度と他者を思いやる心を育成する。生徒の自主的・自発的活動を推進し、社会の一員としての自覚を深めさせる。				
		心身の健康と体力の保持増進		教科指導や特別活動、食育指導等とおして、体力の向上を図り、健康への意識を高める。教育活動全体をとおして安定した細やかな心、強い心を育てる。				
		芸術教育の推進と交流活動の展開及び発信		芸術教育の充実発展を図り、魅力と特色ある学校づくりを行う。交流活動をとおして地域や保護者、関係機関との連携を深め、積極的な情報発信をする。				
評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策・評価指標		自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策	
学習活動	生徒の基礎学力向上とともに、自主的な学習姿勢の向上を図る。学習の指導法及び評価について調査研究を進める。	・「下学上達」に積極的に取り組ませる。現状や効果を各学年から聞き取り、各学年の生徒実態に即した、より充実した内容に改善していく。学年からの意見を整理し、内容を改善できればB、それに基づいた成果が上がればA。 ・アクティブラーニングについて、調査・研究を各学科・教科とともに進めると共に、アクティブラーニングを意識しながら授業を行う。予習復習の習慣づけを重点的に行い、授業をより能動的なものにする。各教科で導入が進めばB。その結果、有効な改善ができればA。 ・観点別学習状況評価を各学科・教科とともに進める。来年度に向けて、職員間に一定の意思統一ができればB。基準ができ、何らかの形で試行ができればA。		B	B	下学上達は、多様なとどろみが展開されてきている。学年毎に到達度の確認や改善を促すよう工夫されいる。教務部として統括する形ではなく、学年の主体性に任せる形ではあるが、うまく機能していると思われる。朝のSHR後、落ち着いた状態で行われており、生活面には一定の効果ももたらされていると思われる。	学年・教科による地道な積み重ねが大切である。 観点別評価とアクティブラーニングに関しては試行に向け更なる調査・研究をしてゆくことが必要である。	家庭学習や授業時間以外の自学自習ができるように工夫・指導を進めてほしい。 普通科の生徒と音楽科、美術科、デザイン科の生徒がもっと交流できる場を作ってほしい。
		・学習指導要領に基づいて、各学科、類型の特性や生徒の進路に適した教育課程の検討を継続的に行う。その進捗状況により評価を行う。		A		職員全体に観点別学習状況評価に対する研究および、アクティブラーニングの試行をお願いした。春・秋の公開授業・研究授業期間を中心に各教科で試行・研究がなされた。教科と連携を取りながら意識の統一を図り、徐々に試行を進めている状況である。次期指導要録が公開されていない中であるので、学校として、観点別学習状況評価を正式に導入するには至っていない。		
		・各分掌・学年・学科との連携や調整を密に図り、学校行事の円滑な運営を目指す。		B		一昨年度、第2学年Ⅲ類型において、理科の学習に重点を置くことを目標として、教育課程の再編成がおこなわれた。本年度は再編後3年目であり、効果の程を見守っている状況である。生徒のニーズにあった編成となっていると考える。 ・主要行事では各担当者だけでなく、教員全体で協力、補い合い円滑な運営を行うことができた。 ・本年度は「芸術に親しむ会」を実施できなかった。日程・予算は厳しいが、生徒に「本物にふれさせる」機会を少しでも増やせるよう、このような行事を計画されることが望まれ		
	学校行事等の円滑化と、儀式での集中力の向上		・担任、副担任による列内指導や、授業等での適切なけじめある指導を通し、集会等で私語がなく、集中して話を聞ける状態にする。			A		

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
生活指導	基本的生活習慣の確立	・日常生活できちんと挨拶ができるよう意識付けをし、また正しい言葉遣いの指導に積極的に取り組む。挨拶運動で朝から挨拶することを習慣づけると共に全校集会などで常に挨拶することの大切さについて伝えていく。	B	B	・全体的な感想としては挨拶そのものができる生徒が多いものの元気良さ、快活さが欲しいと感じる。来客などに対してはハキハキ挨拶できているのか気になるところだが、今後も学校全体で挨拶をしていく雰囲気を作っていく必要があると感じる。	教師の側からも積極的に挨拶をする姿勢を見せると同時に学級でも繰り返し伝える意識付けをしていく必要がある。	日々の寒暖差や、季節外れの暑さ寒さが増えてきた。人によって感覚の差もあるので、制服の移行期間設定等の見直しを検討するべきである。
		・遅刻をなくすことを目指し、特別な事情のない限り、全生徒が8:30には昇降口を通過できることを目標とする。遅刻を繰り返す場合のペナルティなども設ける。	C		・残念ながら30分以降登校の生徒が多くなり、それにつれて遅刻自体の数も増えてきた。学年ごとで遅刻の際のペナルティもあるのだが、学校全体で遅刻指導などの必要もあるかと考えている。	遅く登校することに「慣れる」状況を打破するために自覚を促す必要がある。	頭髮等、身だしなみの指導は今後も継続して指導してほしい。
・カッターシャツ、ブラウスの第一ボタンを締めさせるとともに、服装を正して生活させる。	B	・注意されるときちんと直す生徒は多いものの、自主自覚となかなか難しい面もある。靴下について注意してみる機会をつくると直せるので、そういう機会をまた考えていく必要があると考える。	生徒への意識付けと教師の側からの注意を徹底する必要がある。				
	日常生活におけるルールの徹底とマナー・モラルの向上	・登下校時における、公共交通機関でのマナー、モラルの周知徹底を図る。また、交通ルールに対する考えをしっかりと持ち、事故に遭わない、巻き込まれない安全意識を徹底させる。 ・定期的に登下校の見回りを行うと共に、講演会などを通じて安全意識をより一層高める努力をする。	A		・登下校でのマナーやモラルの周知徹底についてはその都度連絡や見回りなどを繰り返すことによって一定の収穫はあったのではないかと思う。隅々まで徹底することについては難しい面があるが、苦情や問題があった際に繰り返し見回りをするなどして防御していく必要がある。バスを待つ時、乗る時の意識付け、横断の際の注意意識など、周知徹底していくほかないと考える。	マナーについては繰り返し繰り返し啓発活動をしていく必要がある。気持ちが緩んだ時にこそ事故が起こる可能性が高いので安全についてもタイミングを見て繰り返し伝えていく必要がある。	バス待ちの列や、電車内の様子等の公共交通機関の利用マナーは良い。 自転車の速度の出し過ぎや交差点で斜め横断、信号無視などが見受けられる。事故防止の観点からも指導をしっかりとしてほしい。
進路指導	生徒の自発的な学習の啓発と主体的な進路実現の支援	・年間計画に沿って効果的な進路学習を進め、各学年におけるホームルーム活動、進路行事、集会等を通じて、自己を振り返り、将来を展望する機会を増やす。 ・大学入試等に対応できる学力の伸長を目指し、生徒一人一人の進路希望に応じた進路対策講座の充実を進めるとともに、生徒自身が主体的に学習に取り組む姿勢を醸成する。	A		・1年生には年間5回、2、3年生には10回程度の進路HR・説明会・ガイダンス等を実施し、進路に対する意識の啓発に努めた。実力養成講座を、3年生は5月から、2年生は10月から実施。また全学年希望者を対象にスタディサプリ(受講者90名)を受講させている。校外模試等を3年生で8回、1、2年生でそれぞれ2回実施し、現在の学力の把握と改善、受験計画づくりに役立てた。	実力養成講座や模擬試験を家庭学習の改善にもつなげ、一層の学力向上を図りたい。	・放課後の実力養成講座を活用させたい。 ・インターネットを介した講座の導入はありがたかった。 ・進路指導に関する情報が保護者まで十分に伝わらないことがあった。
	キャリア教育の構築と推進	・担任と進路指導部が連携し、生徒全員と面談をおこない、生徒の進路目標を理解し、進路実現に向けた指導を実施する。 ・インターシップ、オープンキャンパス、進路講演会等への積極的な参加を促し、進路実現の具体的なキャリアパスを構築させる。	B	B	・年度当初の進路希望調査にもとづき、担任等が面談によってすべての生徒個々の進路希望を把握し、必要な情報提供や相談をおこなった。県主催インターンシップや病院看護体験等には多数の生徒が参加し、のべ20日程度にわたって職場体験をおこなった。3年生を中心に進学先のオープンキャンパスへの参加を促し、進路決定に役立てた。	進路選択の参考になるような機会や情報をより多く提供し、生徒のキャリアデザインの構築をさらに支援していきたい。	
	進路情報の提供の充実	・ガイダンスやセミナー、講演会等を積極的に活用することで、個々の進路希望に対応した適切な進路情報を生徒・保護者に提供する。 ・進路指導室の情報検索機能を充実させ、必要な情報を得られやすい環境をさらに整える。	B		・普通科対象に、1年生は類型選択前に学問分野別ガイダンスを、2年生は進路ガイダンス・模擬授業を実施した。1、2年生共通としては、就職・公務員・医療系ガイダンスを実施した。進路指導室には必要な情報は揃えてあるが、検索整理が不十分な点がある。情報や冊子・資料の整理をすすめる必要がある。	進路情報や資料の整備に努め、必要な情報にアクセスできる環境を一層整える。	

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
特別活動	生徒の自主的、自発的な活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会が先導し、文化祭などの学校行事に積極的に生徒が関わる。 生徒会が中心になって美化活動、ボランティア活動、あいさつ運動などへの参加を奨励・推進する。 他校・地域などとも積極的に交流し、生徒会の活躍の場を広げる。 	B		<ul style="list-style-type: none"> 生徒の自発的要求から朝のあいさつ運動や美化活動への参加がみられた。 生徒会本部役員だけでなくクラブ員などが加わることでより組織的な活動となった。 文化祭は概ね好評を得たが来年度の日程を見るとさらに厳しい実情が予想される。 	9月の日程の改善、8月後半からのクラス活動の定着	家庭科の授業や生徒会活動、芸術科の活動を通して、地域の保育園や障害者施設などとの交流を活発に行っている。
	学科間・高等養護との交流、部活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 芸術学科の様々な活動や委員会活動を生徒会が中心になって全校生徒に配信する。 学年クラスを越えたグループでのフットサル大会、文化祭への参加を強く呼びかける。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 新聞部と生徒会が協力することで広報活動は校内だけでなく、校外にも発信できた。 学科間、高等養護との交流に関しては、まず学校としての位置づけを確認する必要がある。一分掌で扱うには限界がある。 	昨年度試行された普通科学科の取り組みとの連携、発展 生徒会本部役員以外の生徒たちを巻き込む手立て	音楽を通じた交流が多いが、似顔絵を描いていただいたことが好評で美術・デザイン科との交流も増やしてほしい。
	図書館利用・運営の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の図書館利用や読書活動に積極的に働きかける、またクラス図書委員の活動の幅を広くし、新たな角度からの図書館利用を図る。 課題研究や資料参照など、教科での図書館利用を一層活性化させるために各教科との連携を深める。 	B		<ul style="list-style-type: none"> 「図書委員会だより」を新たに立ち上げ生徒への働きかけをおこなった(3回発刊)。今後は生徒による責任編集など活動の場を広げ利用者増加につなげたい。 調べ学習には蔵書数が不足しておりその充実に努めるとともに、PCやタブレットとの共存も視野に入れる必要がある。 	IT機器の複数導入	
環境 安全教育	校内、校外美化の徹底と防災、防火に関する意識啓発を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 校内及び校外美化活動を各学期に1回実施する。 避難・消火訓練、シェイクアウト訓練を通して防火、防災の意識向上を図る。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 美化委員を中心に高等養護生と共に美化活動を実践した。 地震発生による火災を想定し、シェイクアウト訓練を合わせ、また紀伊半島水害の学習も含め防災意識の高揚に努めた 	美化活動の充実 防火訓練のあり方の検討	特になし
健康教育	健康状態を把握し自己管理できる生徒を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 保健委員会の活動を通して健康意識の向上を図る。 保健だよりを月1回発行し、健康意識を高める。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 保健委員を中心に文化祭等で健康意識の啓発活動を行った。 保健だよりを月1回発行し健康意識の向上、食育、インフルエンザ・ノロウイルスの感染予防等を行った。生徒の興味を引く内容を工夫していきたい。 	熱中症、食物アレルギー対応、感染症対応等学校医の助言を元に具体的な対応を検討する。環境検査を受け、換気の積極的実践を行う	特になし
	スポーツテスト、体育大会、長距離走大会の安全な運営を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 体育委員会の活動を通して各大会の円滑な運営をはかる。また、体育大会について生徒に感想、意見の集約を行い、「満足した」「おおむね満足した」が80%になるよう努力する。 	B		<ul style="list-style-type: none"> 体育委員を中心に準備、片付け等を円滑に行った。体育大会では各学年に新しい種目を設定したが、生徒はおおむね意欲的に取り組んでいた。新体力テストの結果として50m走のデータが下がる傾向にあり、課題である。 	50m走の走路を含め、芝の管理を考えなければならぬ。各行事での要項内容の徹底に時間をかける必要がある。	
人権教育	人権に関する知的理解と人権意識、感覚の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 人権HR・講演会等を通じて人権問題に対する意識の向上を図る。 全学年に夏休みの課題として人権作文を書かせる。 共生社会の形成に向けてインクルーシブ教育を推進する。 	A		<ul style="list-style-type: none"> 横井支部での研修では職員14名が参加。「部落差別解消推進法」の意義と課題について支部側から説明を受けた。差別の現状について支部の方から伺い、現地のフィールドワークで充実した研修になった。 	横井支部との交流は本校の人権教育のもととして継続していきたい。	コーラスや吹奏楽を通じた交流が多いが、今後は、美術やデザイン科との交流も増やしてほしい。
	生徒の交流を充実させ、共に生き、共に育つ仲間集団作りの取組を進める。	<ul style="list-style-type: none"> 奈良養護学校、バルツァゴードルとの交流会を年4回実施する。 高等養護学校分教室との交流を学校行事を通じて行う。 音楽科やその他の部とも連携し、新しい交流会の形を作る。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 奈良養護学校、バルツァゴードルでの交流会を予定通り実施できた。12月の奈良養護学校との交流会は出し物としてボディパーカッションをしたが好評であった。また交流委員の参加生徒も得るものが大きかった。 	毎年のことであるが交流委員全員が参加できる日程を探りたい。	

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
教育相談	教育相談および特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育推進委員会を定例化し、学期に1回、年間3回開催する。 ・ピアサポーターとの連携を深め、生徒理解に活用するためにピアサポーターとの連絡会議を学期に1回実施する。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育推進委員会を、学期に1回、年3回開催した。管理職、スクールカウンセラーにも毎回参加いただき、本校の生徒・先生方に必要なサポートとは何かを共に探っていただいている。形として定着しつつあるが、形骸化することなく、生徒・先生方を具体的にサポートできるものにした。 ・スクールカウンセラーによるカウンセリングは、毎回満杯の状況である。スクールカウンセラーを講師として職員研修を開催した。 ・ピアサポーターとの連絡会議は、年間1回開催した。ピアサポーターに話を聞いてもらう生徒は増えている。ピアサポーターは本校では生徒たちに必要な存在である。奈良教育大学との連携を整備し、活用したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的なサポートの形として、ケースごとに相談チームをつくり、より具体的な相談ができるようにする。 ・カウンセリングの前後に、カウンセラーとの打ち合わせが行えるよう、時間調整を工夫する。 ・ピアサポーターからの情報をさらに有効活用するため、連絡が密に取れるよう工夫する。 	家庭の事情や学習面で悩みをもつ生徒に声かけや相談に乗ることで学校生活が順調になると思う。スクールカウンセラーの活用や相談体制の充実が重要である。
育友会・同窓会活動	保護者との意思疎通の向上と同窓会活動の円滑化	<ul style="list-style-type: none"> ・育友会学級役員との連携を図り、各行事への保護者参加率10%超を目指す。 	C	B	<ul style="list-style-type: none"> ・すべて事務室まかせになり、各行事への保護者参加率を上げるための具体的な方策は今年もできなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務室と連携しながら育友会との連携を強めたい。 	特になし
		<ul style="list-style-type: none"> ・同窓会総会、役員会等のスムーズな運営に助力する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・同窓会関係のスムーズな手助けはできている。ただ毎年のことながら、後年へのつながりを考えると不安なところもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若く、つなげていく年代の総務部員の配置が望まれる。 		
広報活動	広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・WebPage、新聞、各種メディア等を利用した広報活動を一層充実させるとともに、中学校等への積極的な情報提供を図り、本校のよさを広く伝えていく。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・県が、以前から使用していたCMS業者との契約が終了したことに伴い、Web Pageのサーバ・アドレス等が変更となったため、全てのページがリニューアルされた。しかしながら、新しいCMSの使用法に関する情報があまり提供されておらず、手探りでの移行が行われている。使用法に関する情報提供は期待できないため、更新作業を日々行う中で、早く慣れることが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞・各種メディア等を利用した広報活動のノウハウに乏しいため、ノウハウを調べることから始める必要がある。 	高円高校には大勢の芸術科の講師がおられる。多彩な講師陣に習うことが出来る教育環境があることを、学校外に情報発信するべきである。
		<ul style="list-style-type: none"> ・WebPageの充実と活用を職員に啓発する。更新可能なページが、全て更新されればA。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞・各種メディア等を利用した広報活動はほとんどできなかった。過去にほとんど手を打ってこなかった分野であり、次年度はしっかりと手を入れてゆきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・CMSの特徴を知り、一日も早く慣れ、活用することが必要。 		

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
第1学年	基本的生活習慣の確立と規範意識を少しずつ身につけさせる。	あいさつの励行、正しい言葉遣いの指導を徹底する。健康に留意し、遅刻・早退・保健室利用者の人数の減少に努める(各学期5回以内、年間15回以内を目標とする)。また、特別指導を要する生徒の人数を年間で学年生徒数の3%以内を目指す。	B	基本的生活習慣の確立に向けて挨拶の励行はまず教師側から積極的に声かけを行った。挨拶を返してくれる者がほとんどであり後は自らが先に挨拶をしていく側に意識を変えて行動させたい。遅刻指導は今年度は12名。遅刻は1学期はほぼ無かったが2学期から少しずつ増え始めた。特に今年度は8時30分登校、8時35分チャイムを教室で落ち着いて聞く習慣が今ひとつできなかった。また、保健室利用も学期が進むにつれ増加した。特別指導に関しては1名の指導があったが落ち着いた状況であった。	挨拶の励行は引き続き継続。生徒たちから挨拶が出てくることを目標にしたい。遅刻に関しては2学期以降が課題。遅刻指導ではなかなか歯止めにはならない。対策が必要。	特になし
	家庭学習の習慣づけを行い、基礎学力の向上を目指す。	「下学上達」に積極的に取り組み、基礎学力の向上を図る。また、教科担当と連携をとりながら、理解不足を発見し対策をとる。補習等の実施など学年からも呼びかける。さらに、提出課題の把握し全員提出を呼びかけ、期日までに提出を徹底させる。	B	「下学上達」に関しては回が進むにつれて不合格者がやや出てきたが一部の固定したメンバーが主に繰り返す状況。ページ数が3ページになれば減少するが4ページであれば不合格者も多く出てきた。各教科も含めた提出も2学期、3学期と出さないメンバーが決まってきており本人への指導はもとより保護者も交えた指導も行った。	下学上達も何のためにやっているのか、やっても無駄という意識を持つ生徒も考え方を何とか前向きになるよう粘り強い指導が必要。将来のことも視野に入れて活動を見直させる必要がある。	
	自己表現力、コミュニケーション能力の向上を目指し、授業やクラブ活動などで日々実践に努める。	学校行事やHR活動に積極的に参加させることで、なかまづくりや他の生徒を尊重する態度・意識を持たせる。	A	学校行事の準備や特設HR等ではグループや係などの班に分かれて討議や相談など活発に行った。初めての行事であったが、各クラス素晴らしい取り組みを見せてくれた。特に普通科の奈良タイムや総合の時間では、取り組む内容とともに仲間作りが確立されてきた傾向があった。反面、1学期中間考査までは教室で昼食をとるなどの工夫した習慣づけを年度当初動いた方がよかったかもしれない。	「気づき」「思いやり」「笑顔」を意識することでさらに学校生活を積極的に送ってもらうことを期待したい。	
第2学年	基本的生活習慣を身につけさせ、規範意識を向上させる。特に、時間を厳守する態度を育てる。	・遅刻・早退・保健室利用者の人数の減少に努める(1学期5回以内、年間15回以内を目標とする)。 ・服装・頭髪等を直すなど、高校生としての自覚を促す指導を徹底し、集団行動の中で規則や規範の重要性を実感させる(特別指導を要する生徒の人数を年間で学年生徒数の1%以内を目指す)。	B	遅刻指導をした生徒は23名で、昨年度より13名増加し、遅刻総数も600を超え、大幅に増加する結果となった。中だるみによる者もあるが、人間関係等の心身の不調や家庭環境による者も多い。特別指導した生徒は2名で、全体的に落ち着いて学校生活を送っており、指導にも素直に従い改善する生徒が多い。	遅刻指導により幾分歯止めはかかっているが、個々への声かけが最も効果的であったので引き続き継続させたい。頭髪・服装・化粧等の指導も同様に継続して行う。	特になし
	基礎学力の向上のため、課題提出の厳守と家庭学習の習慣化を図る。	教科担当と連携を密に取り、生徒のつまずきに早期に対応し、基礎学力の定着を図る。また、課題の提出を全生徒に厳格に守らせるように徹底する(期限厳守、提出率100%を目標とする)。	B	担当と教科担当が連携をし、課題提出の指導を徹底したが達成率は90%程度であった。各教科における、定期的な小テストや下学上達で、基礎学力の向上と家庭学習の定着につなげることができた。また、美デ科の自主製作作品の展示会も作品数・内容ともに例年以上となり意欲的であった。	体調管理が不十分で提出が遅れてしまう生徒への対応を継続して行う必要がある。明確な進路目標を持たせたり、各種検定を受験させたりして自主学習の習慣付けを行う。	
	社会性の獲得を目指す。	学校行事や学級活動、部活動などさまざまな機会を通して、自己を表現する力や他の生徒とのコミュニケーションをとる力を身につけさせる。また、全生徒が自発的に気持ちのよい挨拶ができる集団を目指し、学校評価アンケートで80%以上の好回答を目指す。	A	各科とも、学校行事・学級活動に積極的に取り組み、生徒間の交流も深まっていた。また、高志創造では「表現トレーニング」を取り入れ、読む・書く・話すことを実践した。生活の規律について、学校評価アンケートでは80%以上の好回答を得るなど年間目標を概ね達成した。	SNSへの書き込みに関するトラブルに対する対策を行う。	

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
第3学年	礼儀・マナーの大切さに気づき、基本的生活習慣の更なる確立と実践を図るとともに、規範意識を一層向上させる。	遅刻・早退・保健室利用者の人数の減少に努める(1学期5回以内、年間15回以内を目標とし、全体として前年比20%減少を目指す)。服装・頭髪・言葉遣い等を正すなど、高校生としての自覚を促す指導を徹底し、集団行動の中で規則や規範の重要性を実感させる(特別指導を要する生徒の人数を年間で学年生徒数の1%以内を目指す)。	C	遅刻指導をした生徒は19名(2年次に比べ2名増加)。前年比目標を達成できず。進路の実現に向けて、常習的に遅刻を繰り返す生徒は激減したが、進路の迷いや人間関係の悩み、体調不良等による遅刻が増加した。頭髪指導をした生徒は8名(2年次に比べ4名減少)。生徒指導部による特別指導を要した生徒は2名(2年次に比べ4名減少)。年間目標達成。	服装・頭髪・化粧・遅刻等の指導については今後も同じ形で継続して指導していく。	特になし
	自己を表現する力や他の生徒とのコミュニケーションをとる力を身につけさせる。	総合的な学習の時間などさまざまな機会を通じて、スピーチやグループでの話し合い、手紙の書き方、面接練習、小論文練習などいろいろな表現を経験させる(面接、小論文が必要な生徒には、全員2回以上指導する)。	B	スピーチやグループでの話し合い、手紙の書き方、面接練習、小論文練習などいろいろな表現を経験させることができた。面接、小論文指導の目標は、ほぼ達成した。	面接、小論文指導はAO入試受験者の増加により、早い段階からの対応に追われている。ガイダンスも前倒しでの実施が必要である。	
	生徒の目標とする進路を実現できるように必要な支援を行う。	実力養成講座、各種ガイダンス、面接講習、学年集会、三者面談などを行い、進路に向けての意識・意欲を高める指導を徹底して行う(実力養成講座の定着率4割を目指す)。	B	学級担任・進路指導部を中心にきめ細かく進路指導が行われ、早い段階から進路に向けての意識を高めることができた。しかし、果敢に挑戦し続ける生徒が減少し、早い段階でのAO入試、指定校推薦で進路先を決定する生徒が増えた。実力養成講座の定着率目標もほぼ達成した。	センター試験や一般入試に挑戦する生徒の減少に、歯止めをかける方策を考える必要がある。	